

2013年度（第1回）
学生生活調査報告書

公立大学法人

神戸市外国語大学

<注記>

1. 本調査は第1回目であるため時系列的な変化を把握することはできない。本報告書の作成にあたっては単純集計を基礎として、必要に応じて学年別の集計を行っている。
2. 本報告におけるコースの定義
 - ① カリキュラム規定上、コースの選択は国際コミュニケーションコース(ICC)では2年次、国際コミュニケーションコース(ICC)を除くコースでは3年次に行われる。コース間の齟齬を取り除くため、本報告書では所属コースは3年生以上として集計している。
 - ② カリキュラム規定上、国際関係学科の学生には国際コミュニケーションコース(ICC)を除き、コース選択が認められていない。本報告書では、国際関係学科のコースは、国際コミュニケーションコース(ICC)と国際関係学科(コース選択なし)として表記する。
3. 以下の規則に従い集計している。
 - ① 各集計結果の百分率は少数点以下第2位を四捨五入し、少数点第1位まで表示しているため、合計が100%にならない項目がある。
 - ② 平均は、特に断りがある場合を除き無回答・無効回答を除いた回答を対象とする。
 - ③ 「その他」の回答が10%を超える設問については、多数意見を記載している。
4. 各項目の満足度を聞いた質問で、肯定的評価の比率とは「満足」「やや満足」を合計したものであり、否定的評価の比率とは「不満」「やや不満」の合計である。

はじめに

本調査は、本学学生の生活状況や意識を把握し、学生支援の基礎資料とすることを目的として学生支援部会が実施した。今後3年ごとに実施し、学生生活の状況を定期的に調査する予定である。

各設問は、個々の学生が持つ多様な意識と、学生が行う様々な活動や成果を、包括的かつ多角的に把握することを心がけて設計した。具体的には、(1) 学生生活全般の状況、(2) 学生が取り組んでいる個別活動、という2つの視点からの調査を主眼としている。活動の分野では、正課教育だけではなく、課外活動や留学といった学生の主体的な取り組みも調査対象とした。全56項目の設問を通じて、少しでも本学の学生生活の全体像が明らかになれば幸いである。

最後に、学生生活調査の実施に協力いただいた学生諸氏ならびに教職員、その他調査の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

2015年 2月
学生支援部長 新野 緑

目 次

はじめに.....	2
第1部 調査の概要.....	3
第1章 目的.....	3
第2章 調査方法.....	3
第3章 基本属性.....	8
第2部 調査結果.....	10
第1章 学生生活全体の状況.....	10
I. 大学生活の考え方.....	10
II. 経済状況.....	10
III. 生活時間.....	11
IV. 学生生活の（主観的）成果.....	13
第2章 個別活動.....	14
I. 正課教育と学習環境.....	16
II. 課外活動.....	16
III. 留学.....	18
IV. TOEIC、就職活動について.....	23
V. 悩み.....	25
資料編.....	27
I. 調査票.....	29
II. 単純集計結果表.....	43
III. 自由記述.....	95

第1部 調査の概要

第1章 目的

神戸市外国語大学では中期計画を定め、教育及び学生支援体制の充実を図っているところである。この調査は、学生の生活状況や意識などを把握し、学生支援のための基礎資料とすることを目的として実施した。今後3年ごとに実施し、学生生活の状況を定期的に調査する予定である。

第2章 調査方法

(1) 調査実施期間

2013年11月5日（火）～11月25日（月）

(2) 調査対象

調査対象者は、2013年11月現在、本学学部・第2部に在籍する全学生 1,851人（休学者を除く）である。

(3) 実施方法

○1 学年と2 学年

1 学年と2 学年については、専攻語学の授業において、担当教員より「学生生活調査票と封入封筒」を配布・回収した。

○3 学年と4 学年

3 学年と4 学年については、ゼミ（研究指導、卒業論文指導）の授業において、担当教員より「学生生活調査票と封入封筒」を配布・回収した。

(4) 回収数・回収率

上記調査期間中の回収数は1,124人分で、全体の回収率は60.7%であった。

表1・表2・表3はそれぞれ学部，学科・学年，コースの回収率である。

回収率は全般的に良好である。学部生1,467人中885人（回収率60.3%）、第2部学生384人中236人（回収率61.5%）である。コース別にみても、中国学科総合文化コース（回収率48.7%）、国際関係学科国際コミュニケーションコース（回収率35.7%）、第2部英米学科語学文学コース（回収率33.3%）を除き、回収率は50%以上である。

表1 学生生活調査実施状況一覧

区分		1年	2年	3年	4年	無回答	合計
学部計	対象数	372	384	362	349	-	1,467
	回収数	218	192	239	236	-	885
	回収率	58.6%	50.0%	66.0%	67.6%	-	60.3%
第2部計	対象数	98	102	87	97	-	384
	回収数	61	63	62	50	-	236
	回収率	62.2%	61.8%	71.3%	51.5%	-	61.5%
全体	対象数	470	486	449	446	-	1,851
	回収数	279	255	301	286	3	1,124
	回収率	59.4%	52.5%	67.0%	64.1%	-	60.7%

※対象学生数は2013年11月現在

表2 学生生活調査実施状況一覧（学科・学年）

学科別		1年	2年	3年	4年	無回答	合計
英米学科	対象数	148	146	157	137	-	588
	回収数	95	62	102	89	-	348
	回収率	64.2%	42.5%	65.0%	65.0%	-	59.2%
ロシア学科	対象数	45	54	36	33	-	168
	回収数	26	17	21	23	-	87
	回収率	57.8%	31.5%	58.3%	69.7%	-	51.8%
中国学科	対象数	55	55	57	57	-	224
	回収数	36	24	37	41	-	138
	回収率	65.5%	43.6%	64.9%	71.9%	-	61.6%
イスパニア学科	対象数	41	40	34	42	-	157
	回収数	21	24	24	32	-	101
	回収率	51.2%	60.0%	70.6%	76.2%	-	64.3%
国際関係学科	対象数	83	89	78	80	-	330
	回収数	40	65	55	51	-	211
	回収率	48.2%	73.0%	70.5%	63.8%	-	63.9%
学部計	対象数	372	384	362	349	-	1,467
	回収数	218	192	239	236	-	885
	回収率	58.6%	50.0%	66.0%	67.6%	-	60.3%
第2部英米学科	対象数	98	102	87	97	-	384
	回収数	61	63	62	50	-	236
	回収率	62.2%	61.8%	71.3%	51.5%	-	61.5%
学科無回答・無効	回収数	-	-	-	-	3	3
合計	対象数	470	486	449	446	-	1,851
	回収数	279	255	301	286	3	1,124
	回収率	59.4%	52.5%	67.0%	64.1%	-	60.7%

※各学科・学年の対象学生数は2013年11月現在

表3 学生生活調査実施状況一覧（学年・学科・コース）

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
英米	1 語学文学	学生数	58	56	114
		回収数	34	35	69
		回収率	58.6%	62.5%	60.5%
	4 法経商	学生数	47	37	84
		回収数	38	29	67
		回収率	80.9%	78.4%	79.8%
	5 総合文化	学生数	41	31	72
		回収数	22	17	39
		回収率	53.7%	54.8%	54.2%
	6 国際コミュニケーション	回収数	11	13	24
		回収数	6	6	12
		回収率	54.5%	46.2%	50.0%
	7 無回答・無効	回収数	2	2	4
学科計	学生数	157	137	294	
	回収数	102	89	191	
	回収率	65.0%	65.0%	65.0%	
ロシア	1 語学文学	学生数	13	9	22
		回収数	12	6	18
		回収率	92.3%	66.7%	81.8%
	4 法経商	学生数	11	5	16
		回収数	6	3	9
		回収率	54.5%	60.0%	56.3%
	5 総合文化	学生数	12	17	29
		回収数	3	13	16
		回収率	25.0%	76.5%	55.2%
	6 国際コミュニケーション	学生数	-	2	2
		回収数	-	1	1
		回収率	-	50.0%	50.0%
	7 無回答・無効	回収数	-	-	-
学科計	学生数	36	33	69	
	回収数	21	23	44	
	回収率	58.3%	69.7%	63.8%	

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
中国	1 語学文学	学生数	13	11	24
		回収数	8	11	19
		回収率	61.5%	100.0%	79.2%
	4 法経商	学生数	26	23	49
		回収数	20	19	39
		回収率	76.9%	82.6%	79.6%
	5 総合文化	学生数	17	22	39
		回収数	9	10	19
		回収率	52.9%	45.5%	48.7%
	6 国際コミュニケーション	学生数	1	-	1
		回収数	0	-	0
		回収率	0.0%	-	0.0%
7 無回答・無効	回収数	-	1	1	
学科計	学生数	57	56	113	
	回収数	37	41	78	
	回収率	64.9%	73.2%	69.0%	
イスパニア	1 語学文学	学生数	13	23	36
		回収数	8	18	26
		回収率	61.5%	78.3%	72.2%
	4 法経商	学生数	9	7	16
		回収数	7	7	14
		回収率	77.8%	100.0%	87.5%
	5 総合文化	学生数	12	11	23
		回収数	9	7	16
		回収率	75.0%	63.6%	69.6%
	6 国際コミュニケーション	学生数	-	-	-
		回収数	-	-	-
		回収率	-	-	-
	7 無回答・無効	回収数	-	-	-
	学科計	学生数	34	41	75
		回収数	24	32	56
回収率		70.6%	78.0%	74.7%	

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
国際関係	6 国際コミュニケーション	学生数	8	6	14
		回収数	3	2	5
		回収率	37.5%	33.3%	35.7%
	コース選択なし	学生数	70	73	143
		回収数	52	49	101
		回収率	74.3%	67.1%	70.6%
	7 無回答・無効	回収数	-	-	-
	学科計	学生数	78	79	157
		回収数	55	51	106
回収率		70.5%	64.6%	67.5%	
学部計		学生数	362	346	708
		回収数	239	236	475
		回収率	66.0%	68.2%	67.1%
第2部英米	1 語学文学	学生数	2	7	9
		回収数	1	2	3
		回収率	50.0%	28.6%	33.3%
	2 英語学・英語研究	学生数	20	33	53
		回収数	13	18	31
		回収率	65.0%	54.5%	58.5%
	3 英語圏文化・文学	学生数	30	24	54
		回収数	23	13	36
		回収率	76.7%	54.2%	66.7%
	4 法経商	学生数	33	31	64
		回収数	25	17	42
		回収率	75.8%	54.8%	65.6%
	7 無回答・無効	回収数	-	-	-
第2部計		学生数	85	95	180
		回収数	62	50	112
		回収率	72.9%	52.6%	62.2%
合計		コース所属 学生数※	447	441	888
		回収数	301	286	587
		回収率	67.3%	64.9%	66.1%

※各学科のコース所属学生数は2014年3月現在。

※第2部英米学科の所属コースのうち「語学文学」は現在廃止されている。

表中の数字は旧カリキュラムが適用される2008年以前入学学生の人数である。

第3章 基本属性

回答数による男女比は男性 30.5%、女性 69.0%となっている。これは在籍学生の男女（男子 33.2%、女子 66.8%）に比べると、女性の回答率が高いものの、その差は2ポイント程度であり、実態と概ね一致している。

なお、学科・コースごとに回答数が異なっており、以下の調査結果について、回答数が多い学科・コースの影響が強くなる点には注意が必要である。学科では、英米学科・国際関係学科・第2部英米学科が多くなっており（表4）、コースでは語学文学コース・法経商コース・国際関係学科（コース選択なし）の割合が高い（表5）。

図1 性別

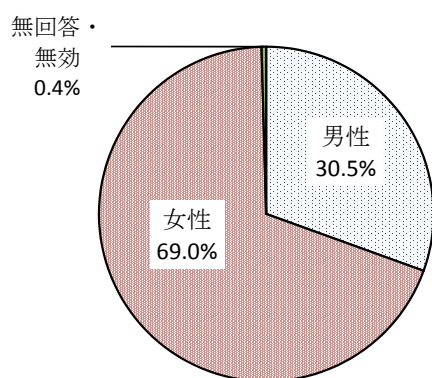


表4 学科

所属学科	回答数	割合 (%)
英米学科	348	31.0%
ロシア学科	87	7.7%
中国学科	138	12.3%
イスパニア学科	101	9.0%
国際関係学科	211	18.8%
第2部英米学科	236	21.0%
無回答・無効	3	0.3%
合計	1,124	100.0%

表5 所属コース

所属コース	回答数	割合 (%)	3 学年	4 学年
語学文学コース	135	23.0%	63	72
英語学・英語研究コース	31	5.3%	13	18
英語圏文化・文学コース	36	6.1%	23	13
法経商コース	171	29.1%	96	75
総合文化コース	90	15.3%	43	47
国際コミュニケーションコース	18	3.1%	9	9
国際関係学科（コース選択なし）	101	17.2%	52	49
無回答・無効	5	0.9%	2	3
合計	587	100.0%	301	286

年齢・入試形態・居住形態は図2～図4のとおりである。

- 年齢構成は19～21歳が多く、19歳が20.6%、20歳が19.8%、21歳が19.9%となっている。
- 回答した学生の居住形態は、自宅49.3%・自宅外50.4%である。
- 入学時の入試形態は「一般入試（第1志望）」（60.2%）が最も多く、次いで「一般入試（第1志望以外）」（24.7%）、「推薦入試」（7.6%）である。

図2 年齢構成

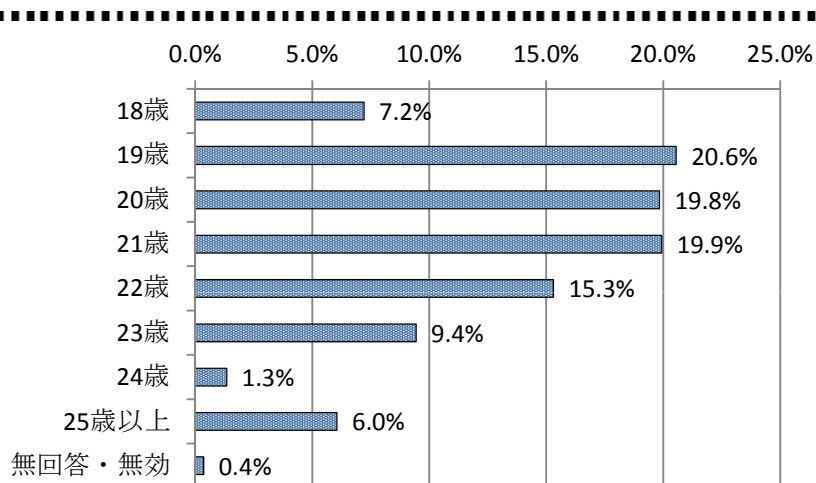


図3 居住形態

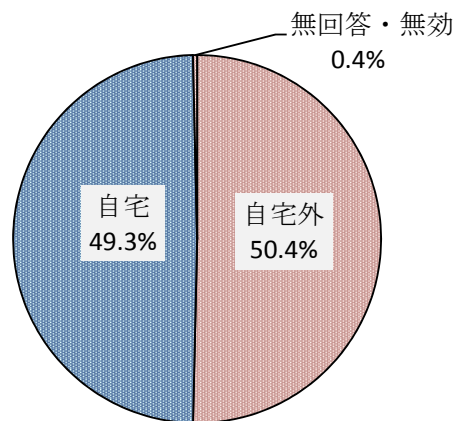
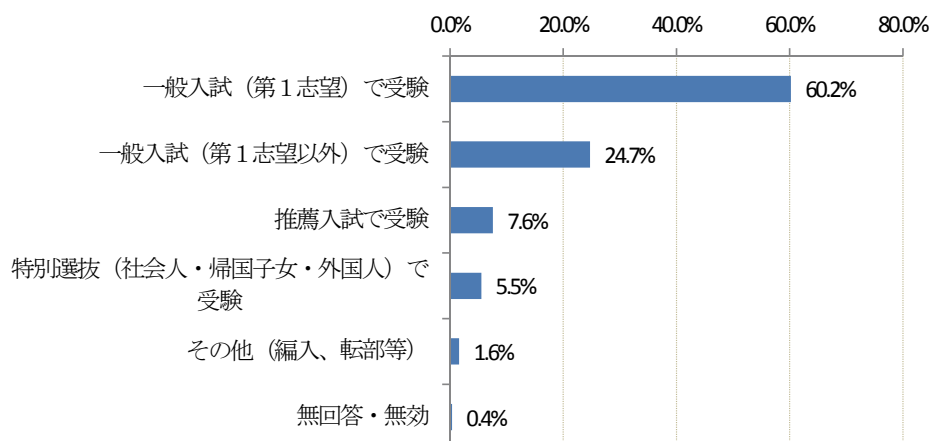


図4 入試形態



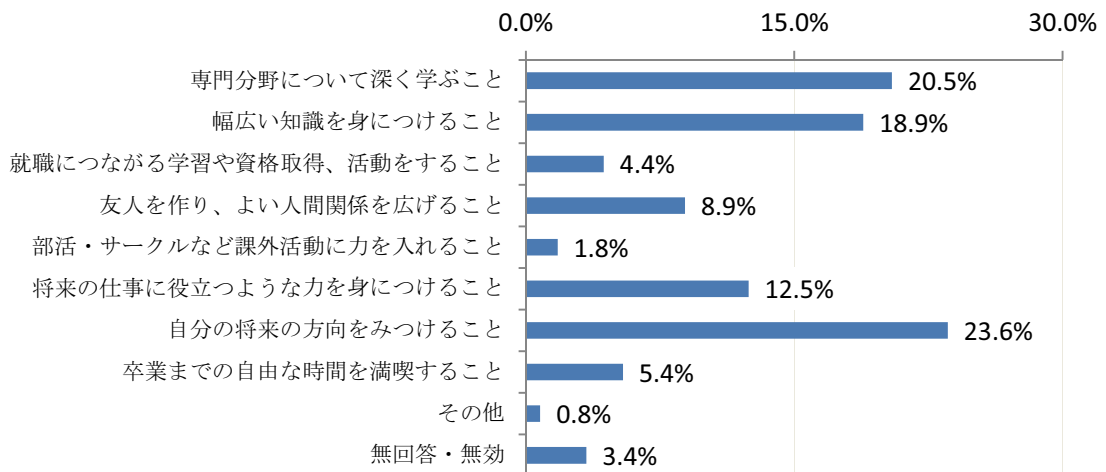
第2部 調査結果

第1章 学生生活全体の状況

I. 大学生活の考え方

「現在、大学生活の中で最も大切だと思っていることは何か」に対する回答状況は、回答率の高い順に「自分の将来の方向を見つけること」(23.6%)「専門分野について深く学ぶこと」(20.5%)「幅広い知識を身につけること」(18.9%)である。

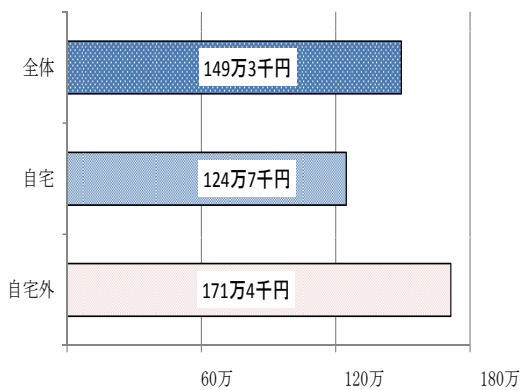
図5 大学生活の考え方



II. 経済状況

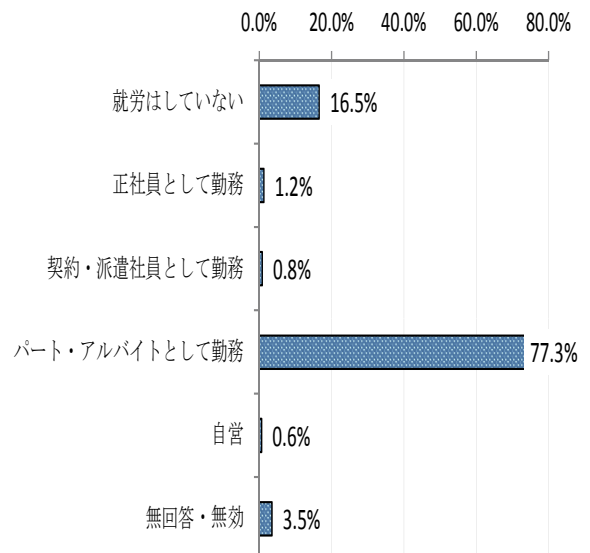
学生本人の年間収入(最近1年間)の平均は、149万3千円である。うち、自宅から通学している学生は124万7千円、自宅外から通学している学生は171万4千円となっている。自宅外生は自宅生よりも46万7千円収入が多い。また、学生の就労状況は、「就労していない」(16.5%)と「パート・アルバイト」(77.3%)で全体の大部分を占めている。

図6 年間収入合計(平均)



※すべての項目が0円もしくは未記入である場合は無効回答として処理している。

図7 学生本人の就労状況



Ⅲ. 生活時間

直近1週間の生活時間を質問した。ここでは、

- 集計方法①：すべての項目が0もしくは空白の場合を無効として処理した結果 (N=1007)
- 集計方法②：回答された合計時間が1週間の合計時間である168時間±10%のみを有効回答とした結果 (N=239)

の2種類を紹介する¹。

本学学生の生活時間の平均は、図8（集計方法①）と図9（集計方法②）にまとめている。

集計方法①では、学習に関する時間は32.7時間（4.67時間/日）、課外活動時間は7.1時間（1.02時間/日）、アルバイト・定職は16時間（2.29時間/日）、娯楽・交友は23.3時間（3.33時間/日）、睡眠時間46.2時間（6.60時間/日）である。

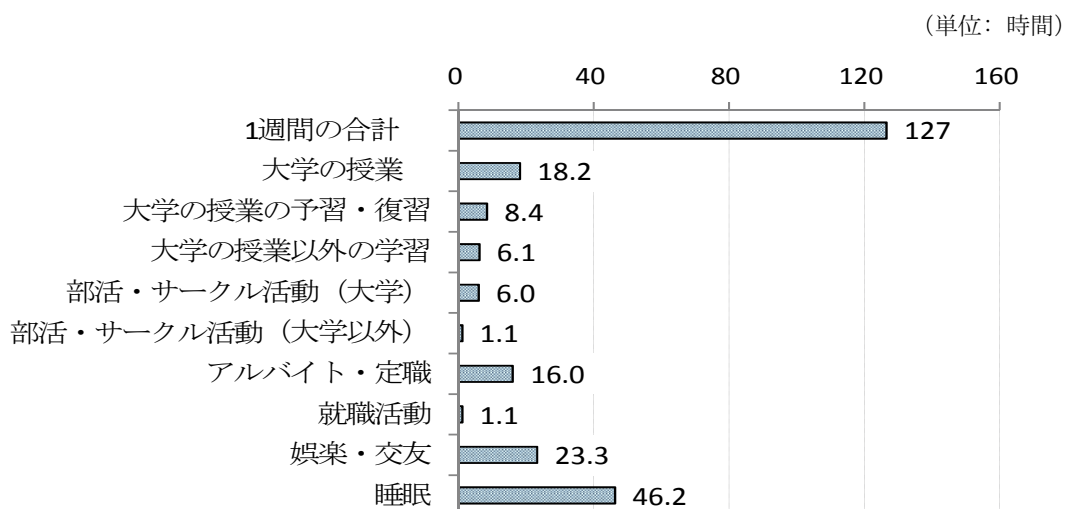
有効回答を限定した集計方法②では、学習に関する時間は41.9時間（6.0時間/日）、課外活動時間は10.1時間（1.45時間/日）、アルバイト・定職は17.9時間（2.56時間/日）、娯楽・交友は47.0時間（6.71時間/日）、睡眠時間は51.7時間（7.39時間/日）である。

図10と図11は、回答を9段階に分類し集計した結果である。集計方法①では、最も回答の多かった区分は、

- 授業：6～10時間が22.6%
- 授業の予習・復習：1～5時間が43.3%
- 授業外の学習：0時間が32.7%
- 課外活動（大学内）：0時間が41.3%
- 課外活動（大学外）：0時間が75.2%
- アルバイト・定職：16～20時間が18.9%
- 娯楽・交友：6～10時間が21.6%
- 睡眠：41時間以上が74.8%

である²。

図8 1週間の生活時間（集計方法①）

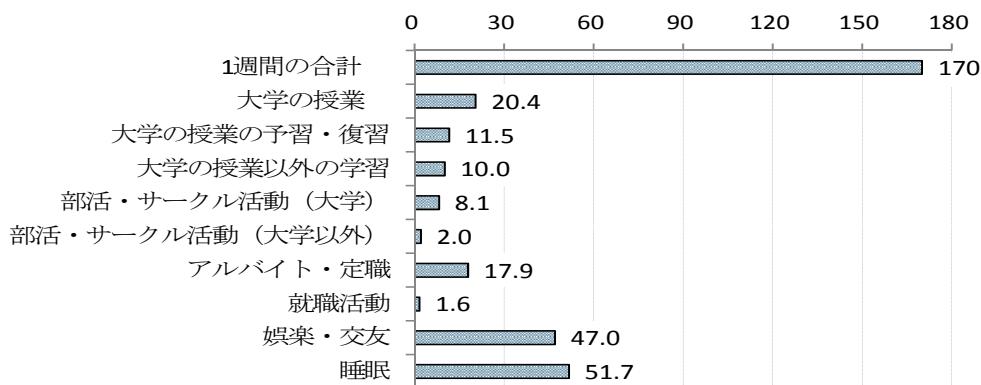


¹ 全体の回答数はN=1,124であり、①の集計方法では有効回答率が89.6%、②では有効回答率が21.3%である。②では有効回答率が大幅に減少し、全体の傾向を把握できない恐れがあるため、2つの集計方法を採用している。

² 多くの設問では再頻値を中心にしてその中心から外れるほど減少する単峰型分布をとるが、授業とアルバイトについては二極化傾向が見受けられることには注意が必要である。分布が二極化している場合、最頻値や平均値は分布の代表値として不適切である。

図9 1週間の生活時間（集計方法②）

（単位：時間）

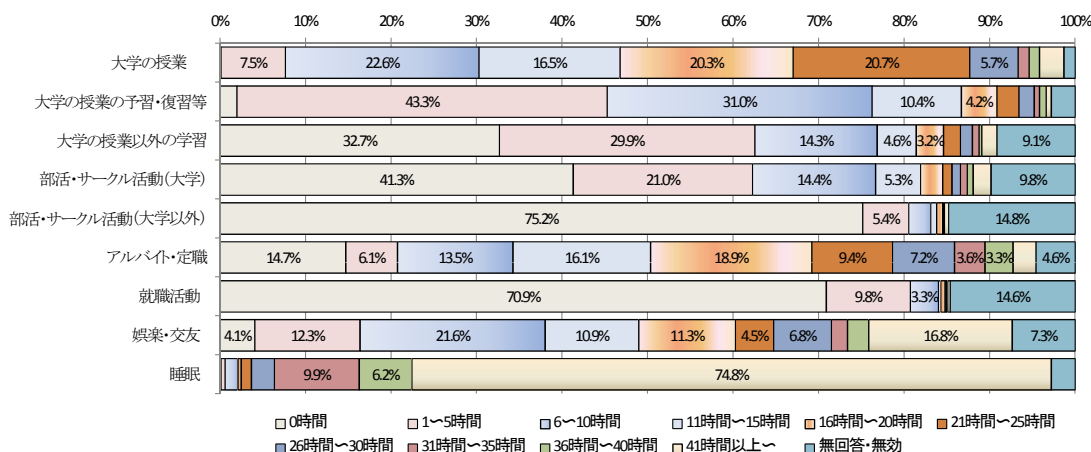


※すべての項目が0もしくは空白の場合は無効として処理

※回答された合計時間が（1週間の合計時間である）168時間±10%を有効回答とした。

図10 1週間の生活時間（集計方法①）

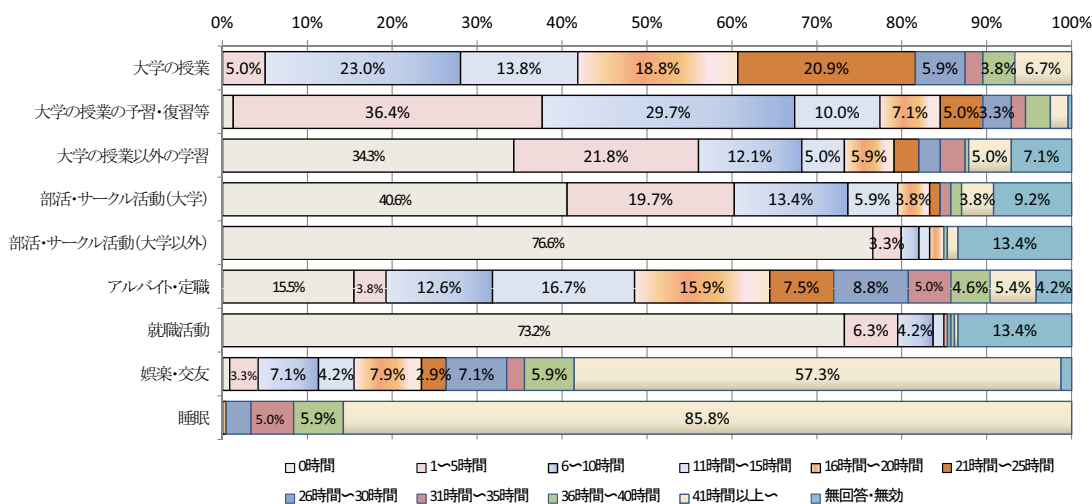
（単位：時間）



※すべての項目が0もしくは空白の場合は無効として処理

図11 1週間の生活時間（集計方法②）

（単位：時間）



※すべての項目が0もしくは空白の場合は無効として処理

※回答された合計時間が（1週間の合計時間である）168時間±10%を有効回答とした

IV. 学生生活の（主観的）成果

大学生活でこれまで身についたと実感できることについて、項目ごとにどの程度当てはまっているかを質問した。図12の数字は「そう思う」と「ややそう思う」の合計である。

全学年の平均で、回答者の過半数以上が身についたと答えた項目は、

- 「A 外国語の本を読んだり、外国語で話す力」 (67.6%)
- 「B 専門分野での知識・理解」 (66.0%)
- 「C 幅広い知識とものの見方」 (66.5%)
- 「G ものごとを分析的・批判的に考える力」 (52.6%)

である。反対に、「身についた」と答えた人が過半数を下回った項目は、

- 「D 将来の職業に関連する知識や技能」 (35.3%)
- 「E 論理的に文章を書く力」 (41.4%)
- 「F 人にわかりやすく話す力」 (40.0%)
- 「H 問題を見つけ解決方法を考える力」 (46.0%)
- 「I 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」 (34.4%)

である。

大学生活の最終学年である4年生の数字をみると、「D 将来の職業に関連する知識や技能」を除き、全ての項目において全学年の平均より上昇している傾向がある。また、4年生時点で70%以上の学生が「身についた」と考える力は、

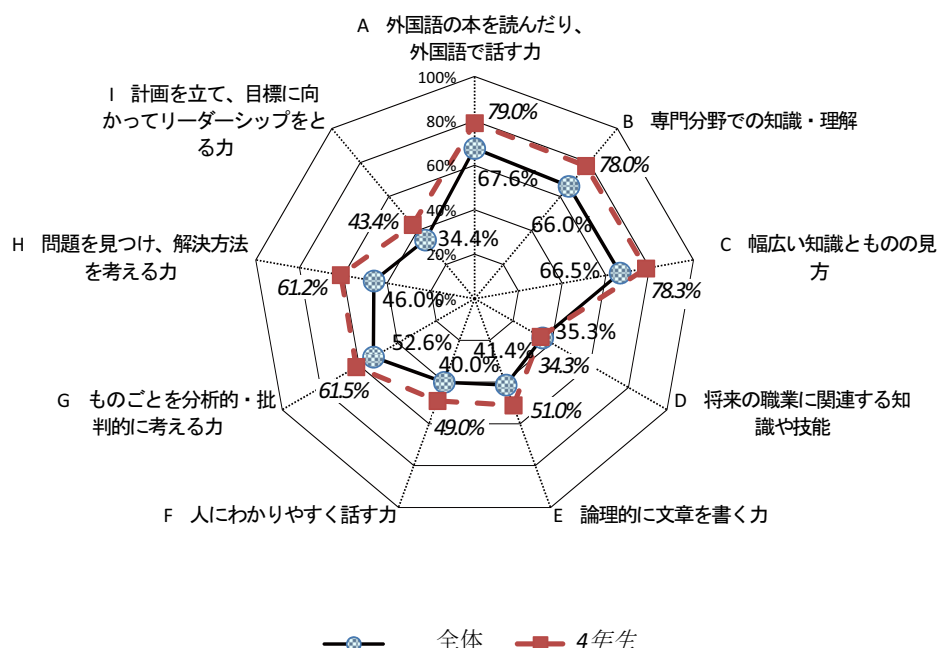
- 「A 外国語の本を読んだり、外国語で話す力」 (79.0%)
- 「B 専門分野での知識・理解」 (78.0%)
- 「C 幅広い知識とものの見方」 (78.3%)

である。逆に、4年生の時点で過半数に満たない項目は、

- 「D 将来の職業に関連する知識や技能」 (34.3%)
- 「F 人にわかりやすく話す力」 (49.0%)
- 「I 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」 (43.4%)

の3項目である。

図 12 学生生活の（主観的）成果



※図中の数字は「そう思う」と「ややそう思う」の合計。

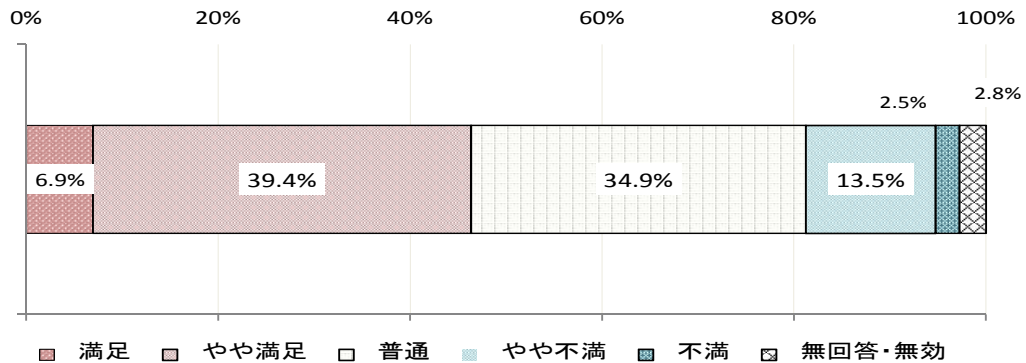
第2章 個別活動

I. 正課教育と学習環境

(1) 正課教育

授業を全般的に評価すると、肯定的評価（「満足」と「やや満足」の合計）は46.3%、否定的評価（「不満」と「やや不満」の合計）は16.0%である。

図13 全科目の総合評価



(2) 図書館

図書館に対する評価では、肯定的評価が63.1%、否定的評価が16.3%である。利用頻度は、回答が多い順に、「週1~2回」(54.0%)、「ほとんど毎日」(18.6%)、「月1~2回」(17.6%)である。利用しない理由を聞いた設問では、「利用する時間がない」(38.5%)、「インターネットで情報を入手している」(27.1%)、「入りにくい雰囲気」(12.5%)の順になっている。

図14 図書館に対する評価

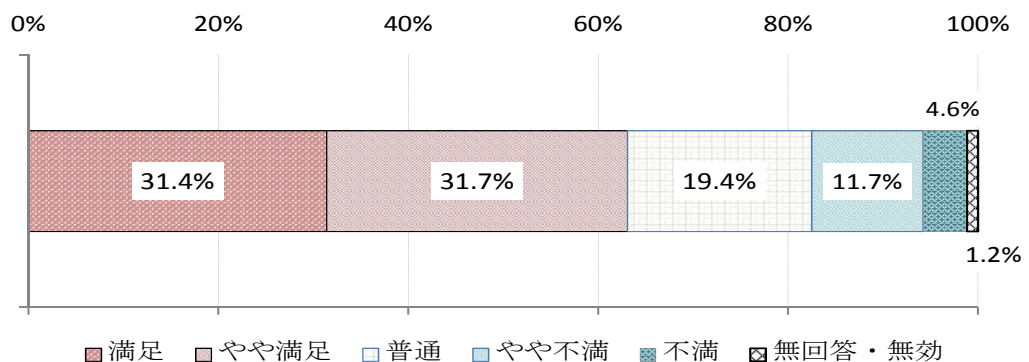


図15 図書館の利用状況

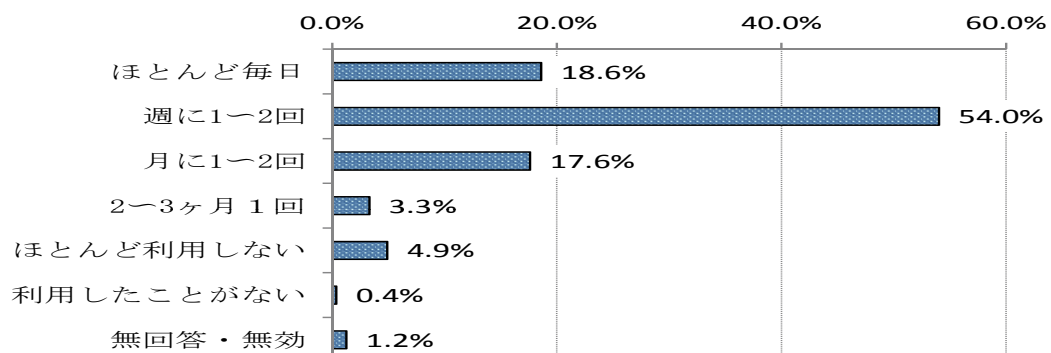
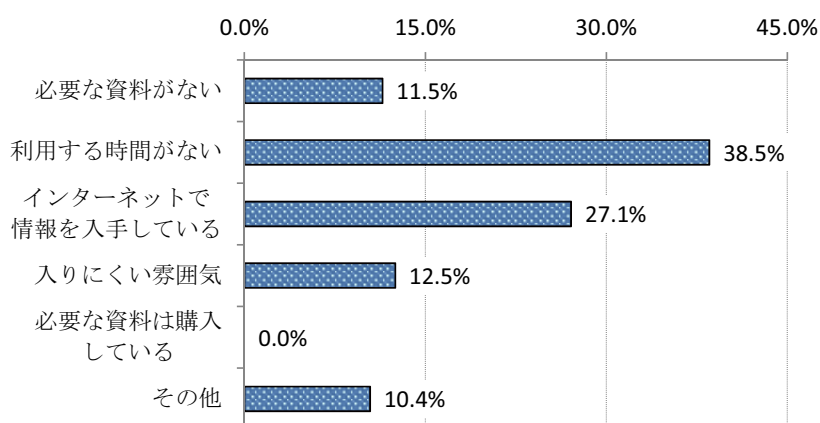


図 16 図書館を利用しない理由



※この設問は、前記の利用状況の質問において「2～3ヶ月に1回」

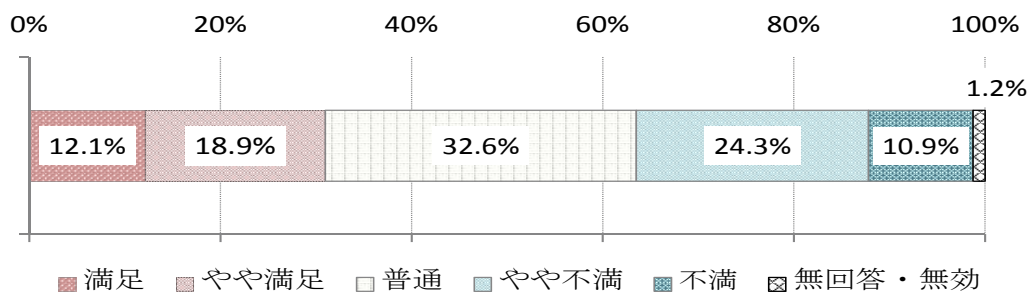
「ほとんど毎日利用しない」「利用したことがない」と答えた人が対象。

※（その他）：せまい、必要なものがなにも置いていない／開く時間が遅い、閉まる時間が早い／空気がわるい（冬） など

(3) 情報機器

情報機器等の設備に対する評価では、肯定的評価が31.0%、否定的評価が35.2%である。

図 17 情報機器等の設備に対する評価



(4) その他

学習にかかわっている教員との交流の満足度を聞いた設問では、肯定的評価が39.5%、否定的評価が11.0%となっている。また、学習のための施設については、肯定的評価が39.7%、否定的評価が28.2%となっている。

図 18 教員との交流の満足度

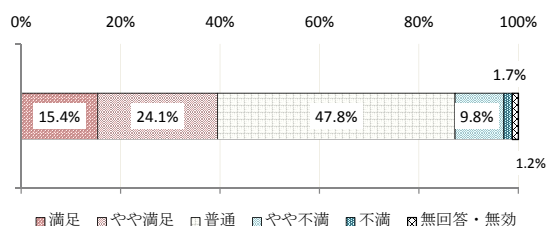
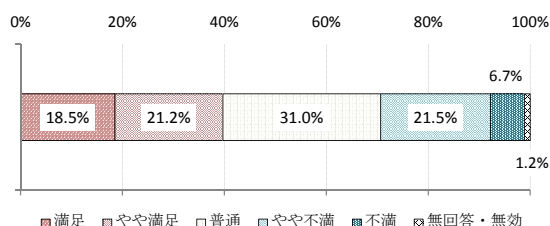


図 19 学習のための施設（教室、自習スペース等）の満足度



Ⅱ. 課外活動

(1) 部活・サークル・ボランティア活動・語劇の状況

課外活動のうち、部活、サークル活動、ボランティア活動、語劇の参加状況を聞いた。学生全体では60.8%、1・2年生に限ると69.3%が参加している。参加している分野は、体育会活動（36.5%）、文化・芸術活動（29.8%）、スポーツレクリエーション活動（13.6%）の順になっている。

こうした活動の目的は、「学生生活を楽しむ」（61.4%）、「趣味と一致する」（30.6%）、「友人を得る」（26.3%）の順になっている。

図 20 課外活動の参加状況

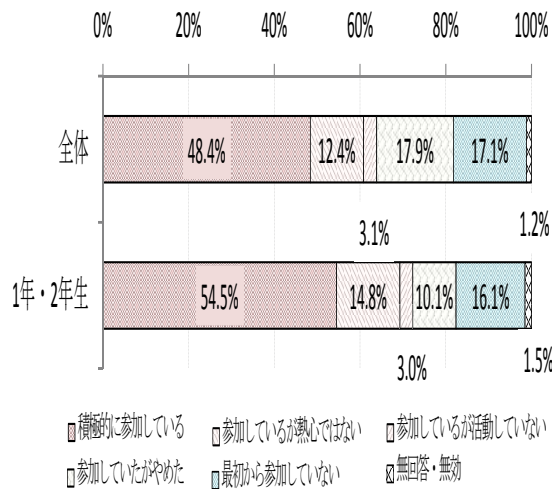
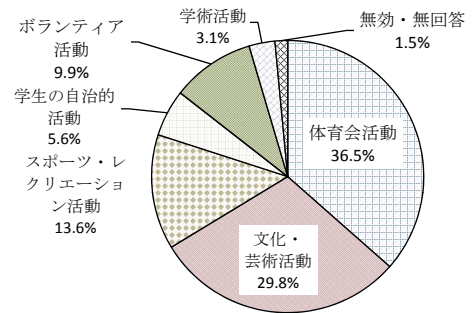
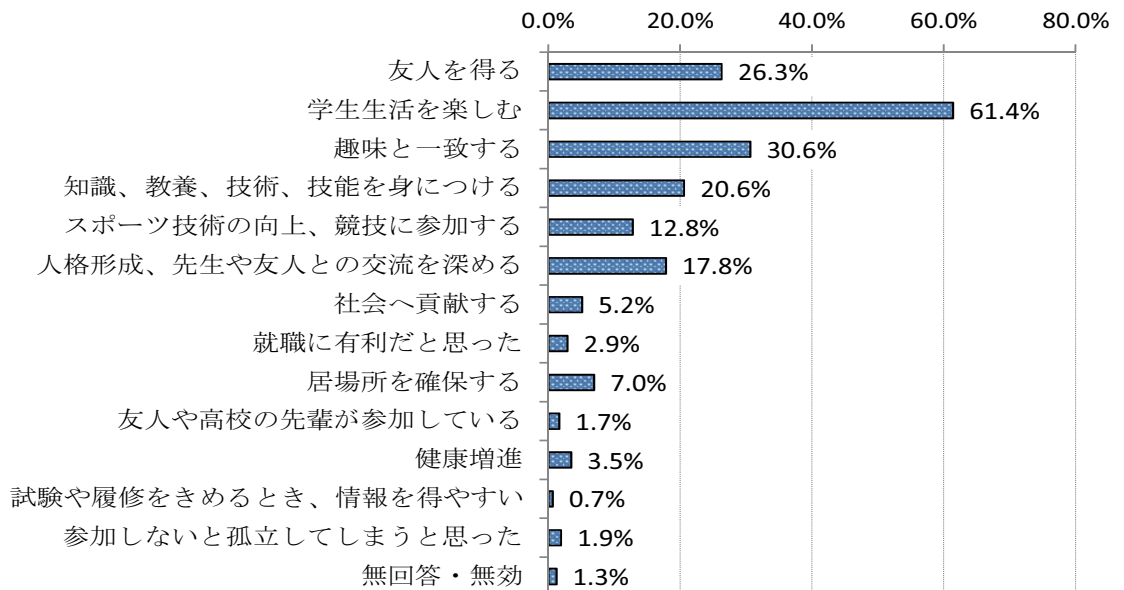


図 21 課外活動の分野



※「課外活動の参加状況」で「1 積極的に参加している」「2 参加しているが熱心ではない」「3 参加しているが活動していない」と回答したものを対象に集計している。

図 22 課外活動の参加目的



※複数選択可。構成比率は回答者数（718）に対するもの。

※「課外活動の参加状況」で「1 積極的に参加している」「2 参加しているが熱心ではない」「3 参加しているが活動していない」と回答したものを対象に集計している。

(2) ボランティア活動の状況

ボランティア活動に限った状況を見てみると、「ボランティア活動の経験がある」学生が34.2%、「関心はあるがしたことはない」学生が42.2%、「ボランティア活動に関心はない」学生は19.2%であった。

ボランティア活動に関心がある学生に興味のある分野を聞いてみると、「外国人対象の国際支援」(72.1%)、「子どもの教育支援」(52.6%)、「災害救援・復興支援」(47.7%)の順になっている。

図 23 入学後のボランティア活動の参加状況

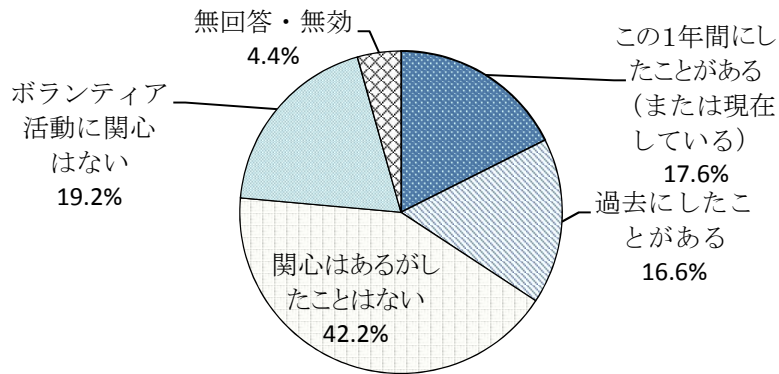
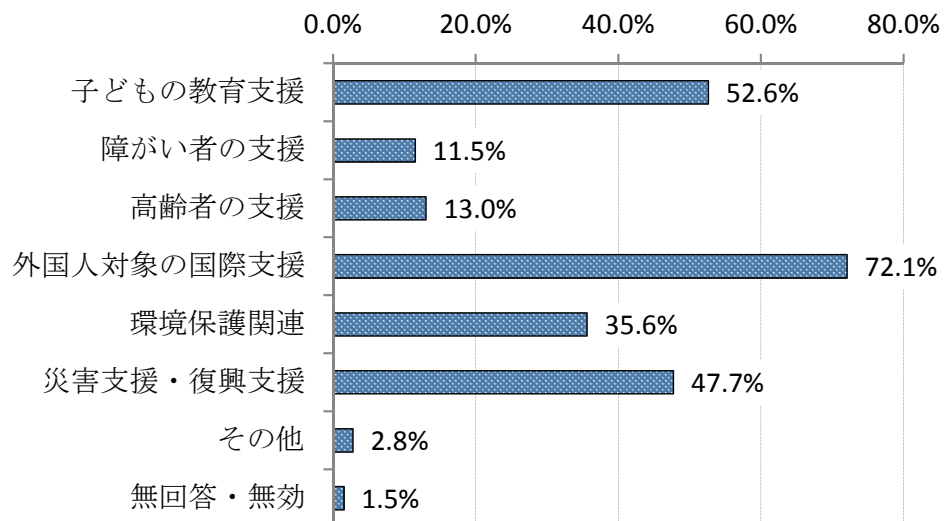


図 24 今後してみたいボランティア活動の分野



※複数回答可。構成比率は回答者数(859)に対するもの。

※この設問は、「入学後のボランティア活動の参加状況」で「この1年間にしたことがある(または現在している)」「過去にしたことがある」「関心はあるがしたことはない」と回答した学生を対象としている。

Ⅲ. 留学

(1) 留学の状況

留学の状況は、「留学をしたことがある」が30.7%、「在学中に留学を検討している」が38.2%、「特に留学する予定はない」が29.5%である。

学年別推移では、1年生の80.6%が留学を検討している一方、4年生で留学経験者は57.3%である。「留学する予定がない」学生にその理由を聞いたところ、割合の高い順に「留学費用が高い」(30.4%)、「関心がない」(13.6%)、「4年で卒業したかった」(13.0%)の順であった。

図 25 留学状況

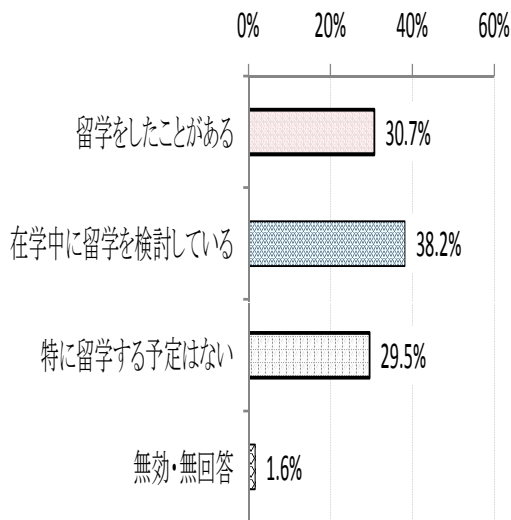


図 26 学年別留学状況

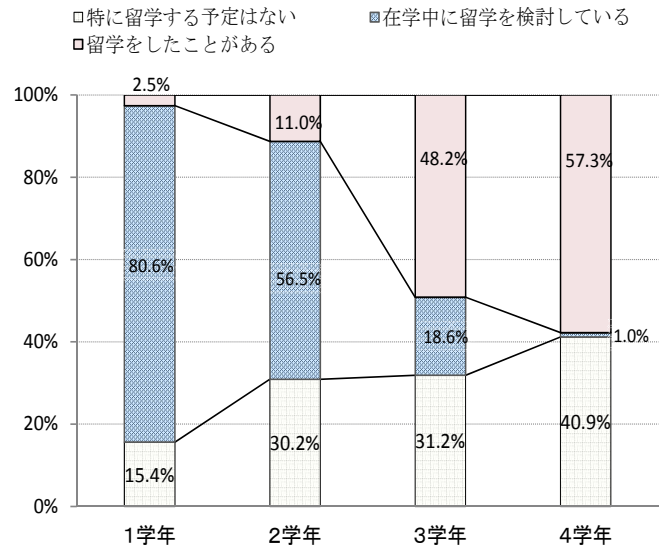
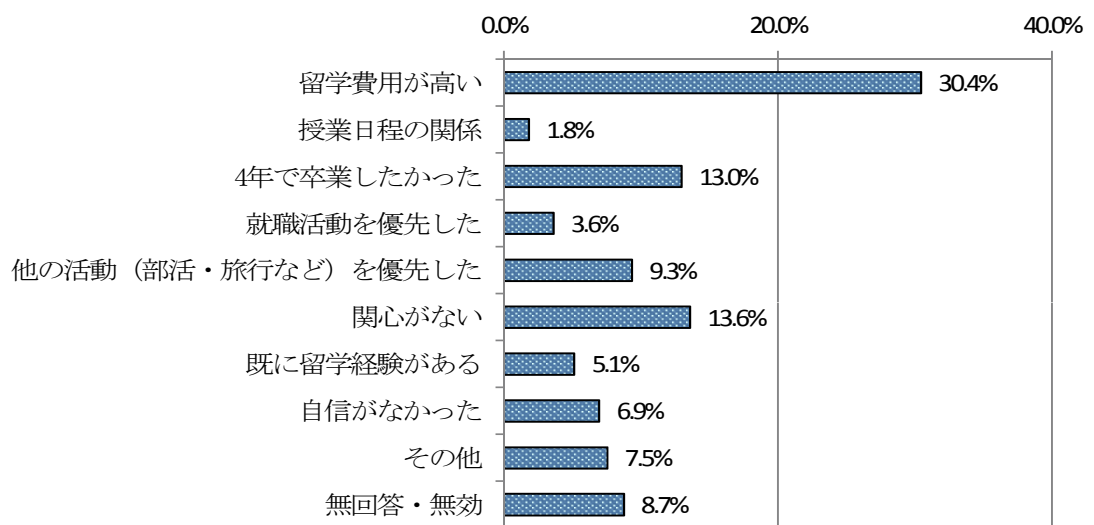


図 27 留学を予定していない理由



※「留学状況」で「特に留学する予定はない」と回答した学生を対象としている。

(2) 留学の形態

留学を検討している、もしくは、留学をしたことがある学生を対象に、その形態を質問した。

- ① 留学を検討している学生が想定している期間・種類・留学先（上位3つ）は、
- ・期間
「7～12ヶ月」（45.2%）、「12ヶ月以上」（17.5%）、「3～6ヶ月」（12.4%）
 - ・種類
「本学派遣留学制度」（36.8%）、「休学して留学（正規学部授業）」（26.6%）、「休学して留学（語学学校）」（21.2%）
 - ・留学先
「英語圏」（73.0%）、「中国語圏」（8.6%）、「スペイン語圏」（7.9%）
- である。

- ② 留学経験者の期間・種類・留学先（上位3つ）は
- ・期間
「3ヶ月未満」（38.8%）、「7～12ヶ月」（38.0%）、「3～6ヶ月」（10.7%）
 - ・種類
「本学派遣留学制度」（30.1%）、「休学して留学（語学学校）」（23.2%）、「休学して留学（正規学部授業）」（16.2%）
 - ・留学先
「英語圏」（61.2%）、「中国語圏」（13.3%）、「ロシア語圏」（9.9%）
- である。

①と②を比較すると、「検討期間」よりも実際の留学期間が短い方にシフトしていることが分かる。こうした留学内容を決めるにあたって重要な要素を聞いたところ、全体の比率の順位は「留学費用」（55.4%）、「就職活動との関係」（15.4%）、「単位認定（4年で卒業）」（8.5%）である。

(A) 期間

図 28 留学期間（全体）

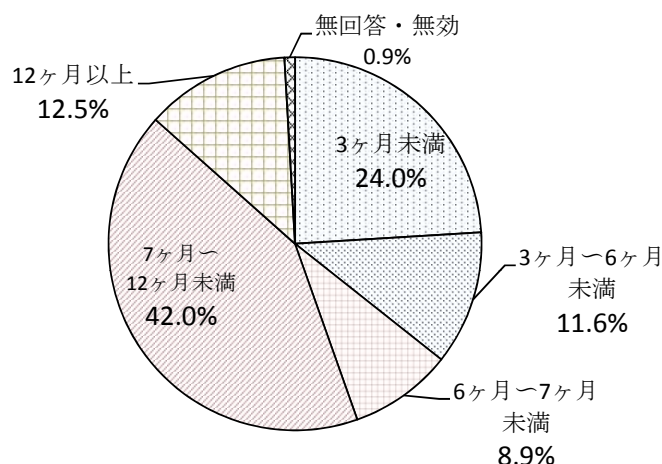


図 29 「在学中に留学を検討している」と回答した人の留学期間

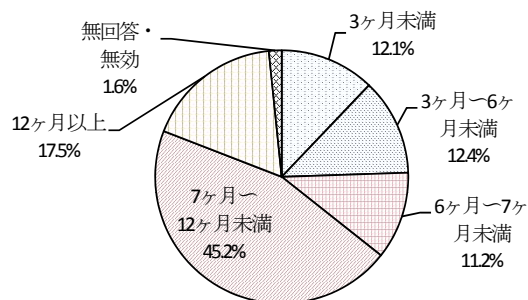
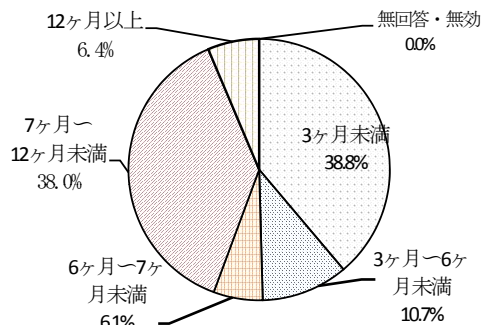


図 30 「留学をしたことがある」と回答した人の留学期間



(B) 留学の種類

図 31 留学の種類（全体）

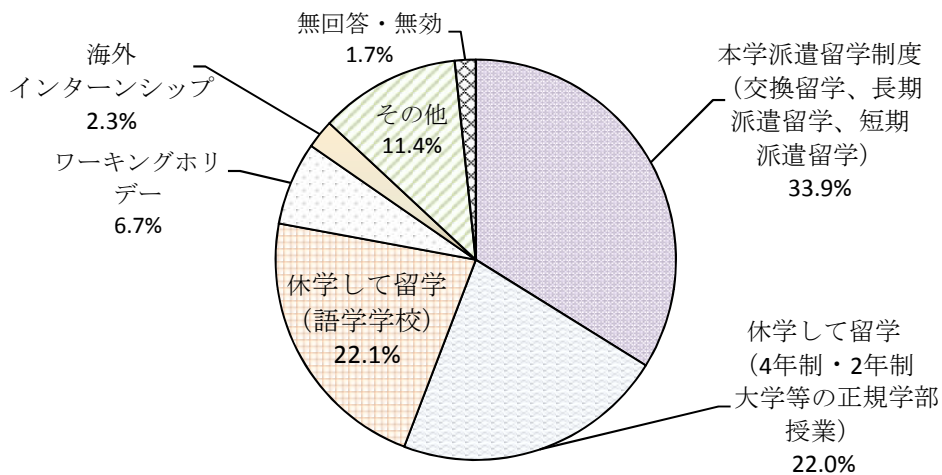


図 32 「在学中に留学を検討している」と回答した人の留学種類

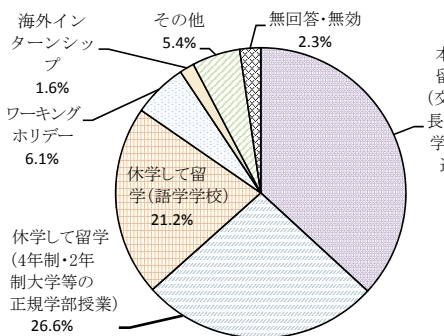
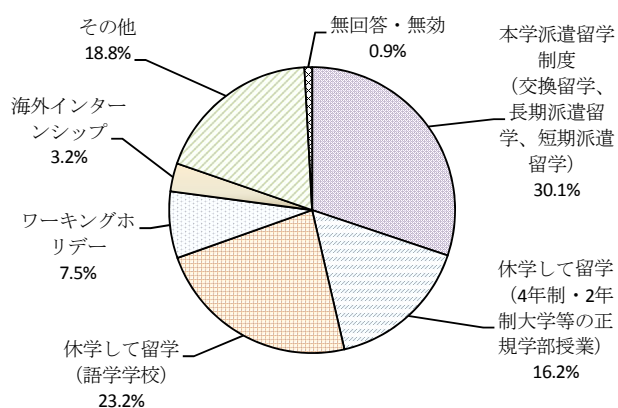


図 33 「留学をしたことがある」と回答した人の留学種類



(C) 留学先

図 34 全体の留学先

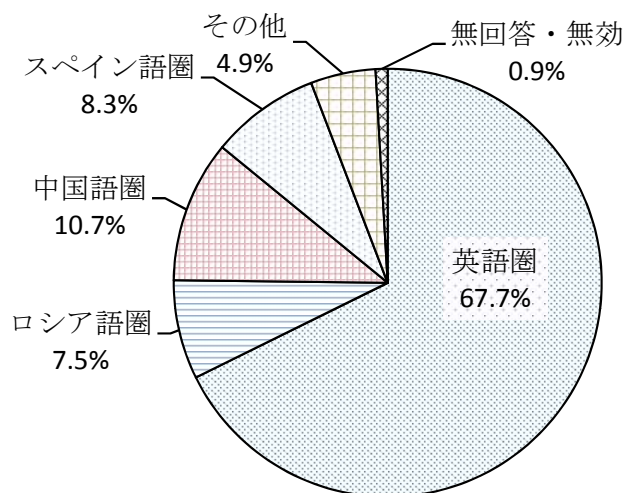


図 35 「在学中に留学を検討している」と回答した人の留学先

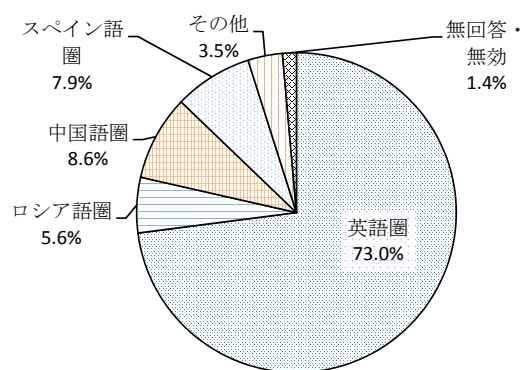
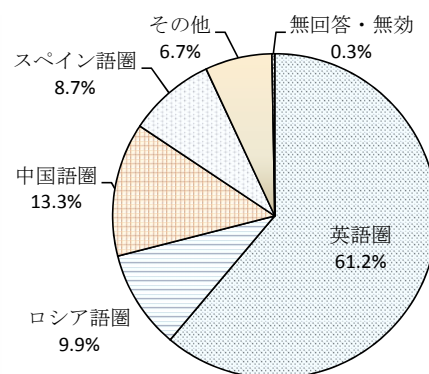


図 36 「留学をしたことがある」と回答した人の留学先



(D) 留学内容を決めるにあたって最も重要な要素

図37 留学内容を決めるにあたって最も重要な要素（全体）

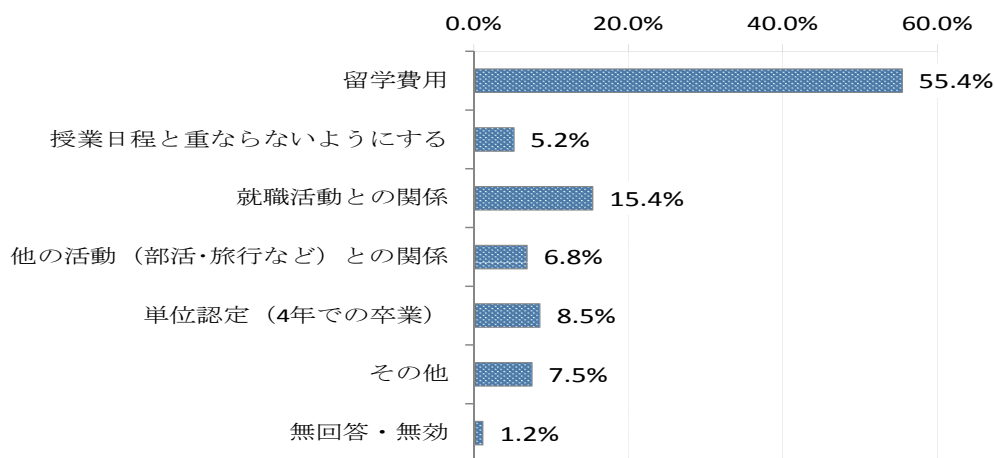


図38 留学内容を決めるにあたって最も重要な要素（留学検討中の者）

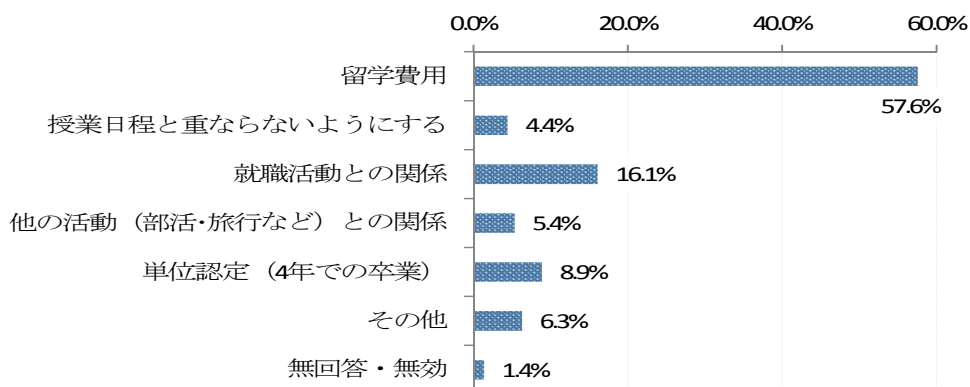
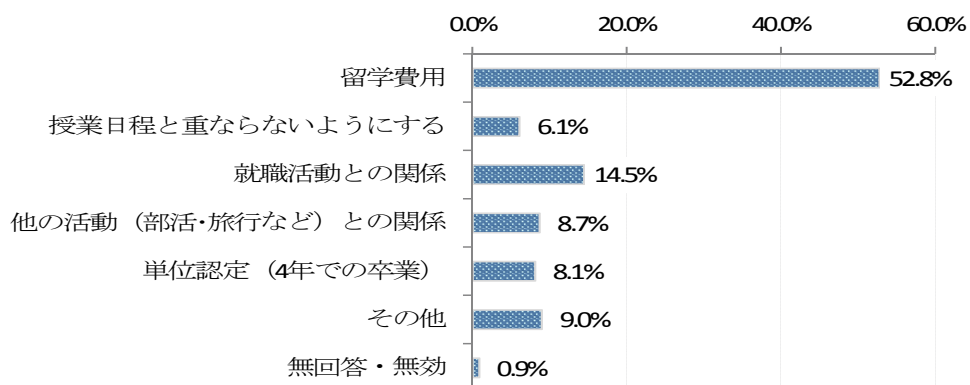


図39 留学内容を決めるにあたって最も重要な要素（留学経験者）



IV. TOEIC、就職活動について

(1) TOEIC

TOEIC受験状況とその得点を質問した。受けたことがあると回答した人の比率は、1年生（41.9%）、2年生（70.2%）、3年生（76.4%）、4年生（83.9%）と増加傾向にある。特に、1年生から2年生の間に急激に上昇している。学生全体の平均得点は745.5点であり、最高得点は990点である。学年別に平均得点をグラフにすると2年生の時点で平均点が下がるが、4年生の平均点は793.9点まで上昇する。

図 40 TOEIC の受験状況

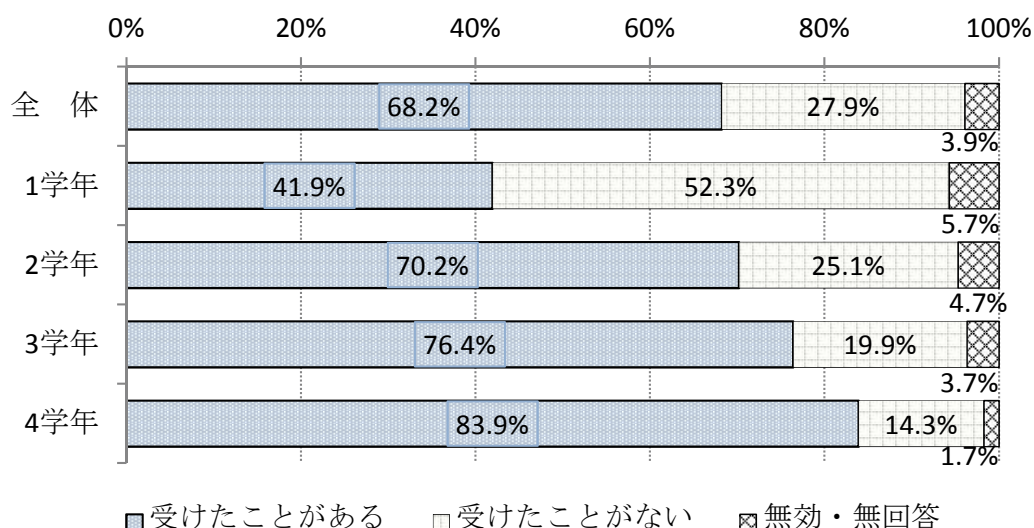
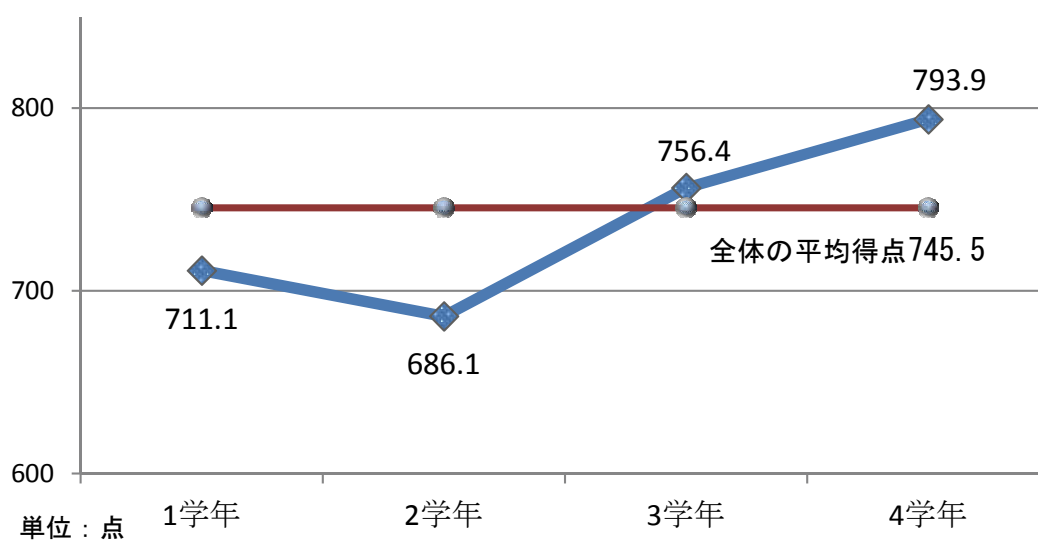


図 41 TOEIC の平均得点（学年別）



※「TOEIC の受験状況」で「受けたことがある」と答えた回答者を対象に記入した最高得点の平均値を導出

(2) 1, 2, 3 年生の卒業後に希望する進路

1, 2, 3年生に卒業後に希望する進路を聞いたところ、「就職」が最も多く78.9%、「決まっていない」が11.0%、「国内の大学院に進学」が3.6%と続いている。就職を希望する学生の希望する業種を聞くと、29.1%が「旅行・教育・サービス業」、20.6%が「メーカー」、10.6%が「報道・出版・情報・通信」となっている。

希望業種の学年別推移では、「旅行・教育・サービス業」は学年を経るごとに減少傾向にあり、代わって「メーカー」などの他の業種が増加している。

図 42 卒業後に希望する進路 (1, 2, 3 年生のみ)

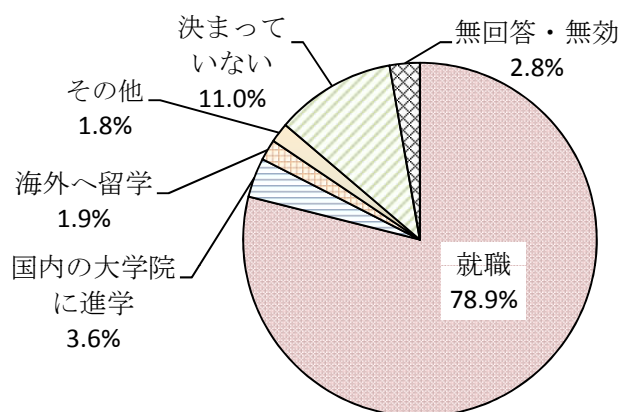
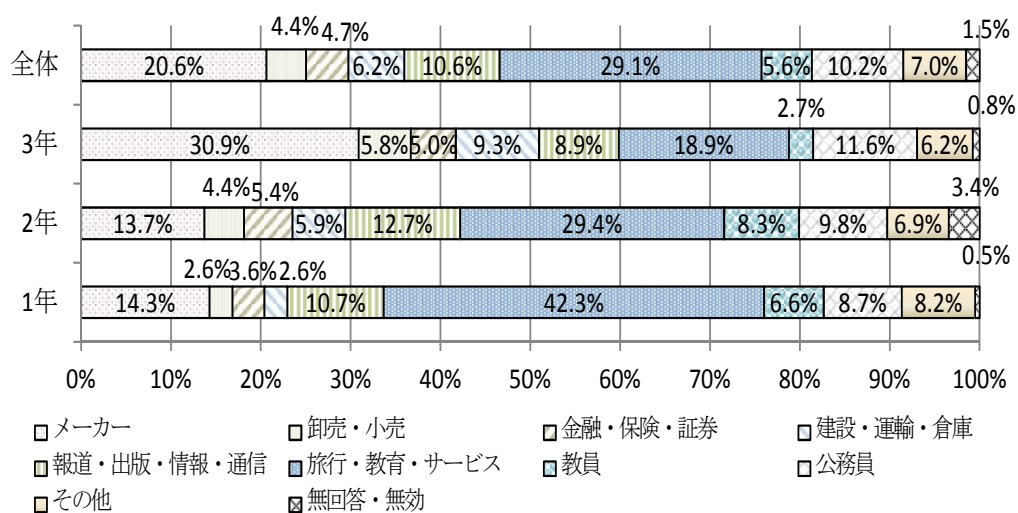


図 43 希望就職先



※「就職」と回答した学生を対象に希望就職先を質問

V. 悩み

学生生活にかかわる「悩み」や「不安」の有無を質問している。「よく悩む」「少し悩む」という回答が合計で54.5%であるのに対して、「あまり悩まない」、「全くない」の合計は42.9%である。相談相手は回答の多い順に、「学内の友人」(39.0%)、「相談しない」(20.1%)、「父母」(18.4%)である。

図 44 悩みや不安の有無

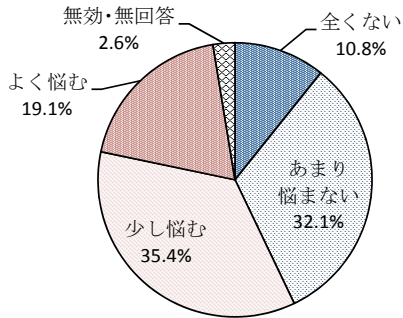


図 45 悩みや不安の相談相手

